

P-490 血清脂質に対する各種ホルモン補充療法による影響

1 旭川医大、2 和田産婦人科医院

基石勝利¹, 和田博司², 槌谷恵子¹, 小森春美¹,
堀川道晴¹, 石郷岡哲朗¹, 岡田力哉¹, 高岡康男¹,
玉手健一¹, 千石一雄¹, 石川睦男¹

〔目的〕閉経後婦人に対してestrogenが脂質代謝に好影響を与えることが多々報告されているが、両性混合ホルモン製剤が与える影響については明らかではない。今回我々は結合型estrogen(CE),estradiol貼付剤(E2),estriol(E3),それらとのmedroxyprogesterone(P)併用及び両性混合ホルモン製剤Metharmon-F(M),Primodian-depot(D)投与患者における血清脂質の変動について検討したので報告する。

〔方法〕対象はCE単独群17例,CE+P連続投与群85例,E2群17例,E2+P群23例,E3(1mg)群40例,E3(2mg)群40例,M群10例,D群39例の計265例である。これらの症例の投与前と投与後6ヶ月の血清総コレステロール(TC),HDL-C,LDL-C,triglyceride(TG)の変化について検討した。

〔成績〕CE,CE+PはTCをそれぞれ8.8%,11.0%,LDLを27.9%,23.8%に低下させ,HDLは16.9%,8.5%と有意に上昇させるが,TGには有意な変化を認めなかった。E2では脂質に有意な変化を認めなかったが,E2+PではTCが6.3%,LDLは9.3%低下した。E3(1mg)ではHDLは3.7%上昇,LDLは5.3%低下,E3(2mg)はLDLが9.7%低下した。MではTCは6.8%低下したが他に変化を認めなかった。DはTC,HDL,LDL,TGいずれも上昇させる傾向が認められた。TCの低下に対してCEはE3よりも有効であり,LDLの低下に対してもCEはE2よりも有効であった。しかしHDL,TGに対しては薬剤による有意な差を認めなかった。またCE,E2ともにP併用による影響を認めなかった。またCE,CE+Pでは投与前値が高いほど変化率が大きい傾向が認められた。

〔結論〕各薬剤により脂質代謝への影響は異なりCE,CE+Pが好影響を与えることが確認された一方,Dは脂質代謝に好ましくない影響を与える可能性が示唆された。

P-491 身体各部位の体脂肪蓄積量に及ぼす加齢や閉経の影響

鹿児島大

山元志奈子, 堂地 勉, 沖 利通, 丸田邦徳,
山崎英樹, 永田行博

〔目的〕肥満が脂肪組織の過剰な蓄積であるとすればその蓄積量よりも蓄積部位(体脂肪分布)が高脂血症などの様々な代謝異常と関連して重要であることが示されつつある。女性は加齢や閉経に伴い体脂肪分布が上半身型に移行する。しかし、身体各部位の体脂肪蓄積がどのような因子の影響を受けているかは必ずしも明確ではない。本研究の目的は身体各部位の脂肪量をDEXAで正確に測定し、それらが閉経や加齢の影響をどのように受けているかを検討することである。〔方法〕右利き右足蹴りの一般有経婦人(n=352,平均年齢;39.2±9.0歳)と閉経婦人(n=167,平均年齢;62.0±7.4歳)を対象とした。年齢,身長,体重,閉経の有無(有経;1,閉経;2として登録)などの背景因子を調査した。身体各部位(頭部,左右上肢,躯幹,左右下肢)の脂肪量をDEXAで測定した。身体各部位の脂肪量と背景因子との相関を単回帰および重回帰分析で求めた。〔成績〕単回帰分析ではいずれの部位の脂肪量も体重と強い正の相関を示した**。重回帰分析では,①躯幹脂肪量は体重,身長とは無関係に閉経*(標準回帰係数=0.086)や年齢**(0.13)と正の相関を示した。②左右下肢脂肪量はそれぞれ体重,身長とは無関係に年齢と負の相関**を示した(左=-0.257,右=-0.216)が閉経とは何ら相関しなかった(左=0.04,右=0.05)。③左右上肢,頭部脂肪量は加齢や閉経とは相関しなかった>(*P<0.05,**P<0.001)〔結論〕身体各部位の体脂肪蓄積に対する加齢や閉経の影響は部位により異なる。躯幹脂肪量は体重とは無関係に加齢>閉経の影響を受けて増加し,下肢脂肪量は体重とは無関係に加齢の影響を受けて減少することが判明した。